

第35号
平成25年2月5日
発行
「市民活動情報紙
なると」編集委員会

市民活動 情報紙なると

鳴門市ボランティア
連絡協議会
☎685-7170
鳴門市市民活動
支援センター
☎685-7170



7回 うずしお福祉フェスティバル
1回 鳴門市市民活動交流研修会



「第17回うずしお福祉フェスティバル」と「第11回鳴門市市民活動交流研修会」の開催風景(1月27日)

第17回うずしお福祉フェスティバルと第11回鳴門市市民活動交流研修会が、キョーエイ鳴門駅前店4階で開催されました。お楽しみ広場や共に生きる現場からの意見発表・市民活動報告があり、その後、(株)いろどりの代表取締役社長横石知二氏の「そうだ、葉っぱを売ろう！」と題した記念講演がありました。横石氏は、「高齢者は知識、経験、人間力がある。その力を発揮できる舞台を作っていく必要がある」また、その地域に住む誇りと自信を持つことが大切だとしたうえで、「視点を変えることで気づくことがある。一人一人に役割があり、まだまだできることがある。小さくてもいいから挑戦してほしい」と熱いメッセージをいただきました。



思いやりの街づくりをめざして・・・

NPO法人 人権ネットもったいない
理事長 喜多 良雄

平成22年11月に、高齢者や子ども・障がい者等の人権や尊厳を守るための活動を行うことを目的に設立した団体です。現在は、訪問介護事業を中心に高齢者や障がい者のお世話をさせていただいている中で、人権を守る活動を行っています。私たちの団体の名称を聞いた人は、変な名前です、何がもったいないのですか？と必ず訊ねられます。この名前の由来は、お世話をする側もされる者もお互いを思いやり、感謝する気持ちである「もったいない」の心を大切に暮らせる社会づくりに、少しでも貢献できたらとの想いで名付けました。介護事業を始めて3月で三年目に入ります。その間、高齢者や障がい者の要望に少しずつ応えながら活動を行い、昨年6月からは介護タクシー事業をスタートさせました。これも、私たちが関わっている高齢者や障害をお持ちの方々の多くが「外出や通院に困っています。気軽に利用でき、また経済的に負担が少なく安心して利用できる交通手段が欲しい」との要望に応えるべく始めた事業です。この介護タクシーは介護保険や障害者自立支援法を利用することが出来ますので、通院時等には利用者さんの負担が非常に少なく済みます。私たちの訪問介護事業所を利用して頂いている利用者さんだけでなく、他の事業所の利用者さんにも利用して頂いており、利用者さんからは、便利になったばかりでなく、タクシー移送の間に色々な悩み事や心配事・介護保険や障害者自立支援法の利用方法などの相談に乗ってもらえると悦ばれています。

私たちは今後、高齢者や障がい者が、子どもたちや地域の方々とも自然に交流していけるような機会や場を提供できるよう活動の場を拡げていけたらと考えています。まだまだ手探りで事業を進めています。皆様のご指導やご助言を頂けますようよろしくお願いいたします。

NPO法人ぽてとくらぶの活動報告

NPO法人ぽてとくらぶ
理事長 都築 一雄

NPO法人ぽてとくらぶは、わかめ家族会が開所した小規模作業所「ぽてとくらぶ」を平成18年8月、法人化しました。回復途上にある在宅の精神障がい者を対象に、心身の健康に配慮しながら活動の場を提供し、ハンガーの組立加工を通して職業能力を高め就労準備をするとともに、妙見山公園の花壇管理等の社会参加活動により社会性を身につけ、精神障がい者の社会復帰に寄与することを目的としています。

「学習会」は日常生活や人間関係、病気、薬、就労など利用者が困っていることや興味のあることを課題にしています。平成24年度の研修旅行は坂出市にある社会福祉法人若竹会の見学に行ってきました。NKKの部品袋入れとクッキーの製造販売でした。

その次に倉敷市の大原美術館の芸術鑑賞に行きました。エル・グレコの受胎告知、クロード・



大原美術館へ行く

モネの睡蓮など、分館では日本の近代洋画から現在活躍する作家たちの作品、棟方志功の版画等、世界的に有名な作品なので強く印象に残りました。

アウトリーチ訪問支援とかピアカウンセリング、ピアヘルパーなどは同じ心の病を持つ同士が支援する関係用語です。電話相談や訪問して日常生活の支援をすることで、県家族会は数年前から電話相談を始めています。在宅の精神障がい者を対象にアウトリーチを実施することによって、「ひきこもり」の方達への研修会のお誘いができるので社会性が身につくと思います。当所には徳島県ひきこもり研究会事務局より「ひきこもりつつ生きる地域づくり」講師立命館大学教授山本耕平氏などのイベントの案内がきます。徳島県受諾事業として総合科学部心理学教授が担当し、実施しています。

高次脳機能障がい者の社会参加支援に関する研究「徳島大学脳神経外科内」永廣教授から高次脳機能障害支援体制資源に関する調査依頼がきたり、精神健康福祉センター主催の徳島大学での研修会・保健所での研修会、家族会主催の研修会などがあります。

福祉関係者の参加とご協力をお願い申し上げます。

行事のお知らせ



バルトの庭春まつり

NPO法人ドイツ村BANDOROケ村保存会

【日時】平成25年3月24日(日)

10:30~14:00 *小雨決行

(イベント時間内入園無料)

【場所】阿波大正浪漫 バルトの庭

【内容】3匹の子豚

(等身大ぬいぐるみ劇団とんからりん)

フラ&タヒチアンダンス・ジャグリング

二胡演奏・創作エイサー、遊び、食べ物

(イベント時間先着100組に粗品プレゼント)

【問い合わせ先】

阿波大正浪漫 バルトの庭

TEL・FAX 088-689-2163

4月に徳島エンゲル楽団演奏会を予定しています

平成24年度 コミュニティ講演会

【日時】平成25年2月18日(月)

14:00~16:00

【会場】鳴門市役所 共済会館3階 大会議室

【演題】「ロコモティブシンドローム」

(運動器症候群)

【講師】健康保険鳴門病院

リハビリテーション部

理学療法士 川村 圭司さん

【主催】鳴門市自治振興連合会

【共催】鳴門市

【問い合わせ先】

鳴門市役所 市民協働推進課

☎088-684-1189

堀江地区自治振興会の紹介と思うこと

堀江地区自治振興会 会長 岳上 佳典

私たちの自治振興会は、旧吉野川沿いから阿讃山脈までの13の自治会で構成しており、大麻町の堀江公民館を拠点に活動しています。会長は1年毎に役員(13自治会の会長)の互選で選出しています。その活動の概略を紹介します。

①各専門部会の主な活動として、体育部会は、グランドゴルフ大会を地元同好会等の協力で開催しており、道具を持っていない初心者も参加・プレーできます。板東地区自治振興会との共催大会では、100名以上の参加者がいます。文化部会も、板東地区に協力をして頂き、大麻町文化展を行っています。絵画、書道、写真、俳句、絵手紙、パッチワーク、生花等々170点余の出品があり、2日間堀江公民館で展示しています。安全部会では、カーブミラーの清掃、福祉部会は、慰問福祉活動、環境部会は、県道沿いの畑を借り、コスモス畑の育成管理と祭での接待をしています。これら活動は、部員以外にも地域の人々の協力、役員の実援により行っています。

②地区内行事への主な支援活動では、地域活性化の目的で、シングルベルマラソンを後援しています。昨年度は桜の広場を作る自治会へ桜苗木を進呈し、今年度は大谷川ホテル祭りへの後援をしました。又、堀江公民館まつりも支援をしています。



コスモス畑の種蒔

③今年度は、自治振興会を母体に自主防災会連合会を立上げ、不法投棄防止パトロール隊を届出しました。これから、少しずつでも着実に目的に近づけると良いと思います。

話は変わりますが、私がこの半年ほど振興会に出て見たことは、活動している人数は自治会により大きな差があり、協力的熱心な人達もいて全体が維持されていることです。自治会活動は、自主的な地域のボランティア活動で、後ろ盾がありません。トラブル例を聞くと腰が引けがみです。又、ボランティア活動を始めてみようかという人で続かない例もあります。しかし、市は地域に活動を求めていますし、ボランティアのない社会は寂しいとは思いますが、自治会経験の浅い私でも、活動がし易い環境や活動する人を増やす方法、運営の知識などが直ぐに判り活用できないものかなと思うこの頃です。

助成金情報

LUSH JAPANチャリティバンク



小規模で直接的に活動している草の根団体を支援

◇活動内容

- 環境保護活動
- 動物の福祉/動物の権利擁護活動
- 人道支援/人権擁護活動

◇対象

- 1年以上の活動実績がある団体
(法人格は問わないが、株式・有限会社は不可)
- 小規模で草の根活動を行っている団体
- 他の助成財団からの助成金や寄付が集まりにくい団体
- 社会をより良いものへ変革するために問題の根本を見極め、取り組む努力をしている団体
- 波及効果があるプロジェクトを行っている団体

◇助成期間

- 原則1年以内のプロジェクト
(継続支援も可能だが、プロジェクト完了後に再度申請が必要)
- 短期的なプロジェクト、長期的なプロジェクトのいずれも可能
(審査の都合上、申請から3か月以内のプロジェクトは助成できないこともある)

◇助成金額 10万円~200万円(助成財源により変更の可能性あり)

◇締切日

2ヶ月に1度、偶数月の月末(当日消印有効)

◇問い合わせ先

(株)ラッシュジャパン
チャリティバンク事務局
☎ 03-5781-9567

感動の全国ボランティアフェスティバル



レインボーグループ
副代表 三島 良治

★三重県・津市での大会に初参加

鳴門市ボランティア連絡協議会の勧めもあり、昨年9月29日（土）から2日間、全国各地の各種ボランティア活動に携わる人たちが参加する「第21回全国ボランティアフェスティバルみえ」に初めて参加させていただきました。

地元・三重県の行政をはじめ、多くのボランティア団体の熱い歓迎の中で迎えたフェスティバルは、初日の開会式、テーマトーク、懇親会、2日目のテーマ別分科会と進行。ボランティア元年といわれている2年前の東日本大震災についても多くの報告がありました。

「毎年8月初めの土日に、地域あげて子どもサミットを行い、子どもたちが地域に関わることで防災・減災にもつなげている。自宅から大学まで徒歩で何分かかかるか？実際に自分の足で歩き、目で見て確認してもらい、大学から一歩出て、見えないものを見る力を養っている。これからは、若者を育てていかないと社会は良くならない」とのテーマトークの意見も出て、少子・高齢化社会を迎え、日ごろの地域の中での青年層の育成の必要性を痛感しました。

「とくしまNPO賞」に選ばれました

障がい者の就労と自立を支援しているNPO法人JCIテレワーカーズ・ネットワークが長年活動し功績をあげたNPO法人を表彰する「とくしまNPO賞」の大賞に選ばれました。

JCIテレワーカーズ・ネットワークは「心身の障害、難病、高齢などのために、社会生活・職業生活の中で弱者の立場を強いられている人たち（チャレンジド）の社会的・経済的自立の実現」を目指して、ICT（情報通信技術）利用技術指導者の育成や印刷物の作成、Webサイト・システムの設計・開発、パソコン要約筆記者の派遣等の事業を行っています。

★エコキャップ推進3年目

私どもレインボーグループも約100人の老若男女のメンバーが、エコキャップの推進活動（ペットボトルキャップのリサイクル運動）をはじめ、鳴門市内各所でのカーブミラーの定期的な清掃・補修・点検作業、市内の福祉施設へのタオル贈呈など、身近なボランティア活動を推進しています。特に3年前から行っているエコキャップ収集活動では、グループメンバーはもちろん、地域住民の方々の熱心な協力もあり、累計約10万7千個のエコキャップを収集。ポリオワクチン130人分をJCV（NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会）に寄付してきました。

本年度の全国ボランティアフェスティバルは11月23日から2日間、高知市で開かれませんが、同大会を一つの目標に、幸せの輪を拡大しつつ、地域貢献へのさらなる取り組みを決意しています。



エコキャップ運動

鳴門市市民活動支援センター

鳴門市撫養町南浜字東浜30-9
老人福祉センター1階

開館日 月～金曜日 13:00～18:00

休館日 土・日・祝祭日・年末年始

☎ 088-685-7170

（鳴門市社会福祉協議会内）

FAX 088-686-4059

E-mail: naruto.npo.shien@gmail.com